

リモコン工事説明書 <全機種共通>

225WA4176-00

工事される方へのお願い

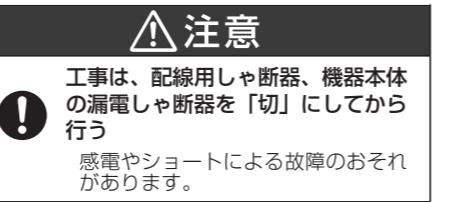
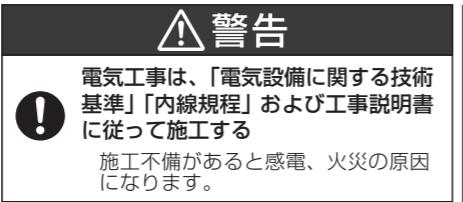
- この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい設置工事が必要です。設置工事の前に「リモコン工事説明書」を必ずお読みください。
- この説明書は、工事後、機器本体の「工事説明書」とともにお使いになるお客様にお渡しし、保管いただくよう依頼してください。
- この説明書に記載されていない方法や保証書と適合しない内容で工事された場合、事故や故障の責任は負いかねます。（施工者責任になります。）

■安全上のご注意

- ここに示した注意事項は、取付工事をする方や他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。次の内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

| 表示 | 表示の意味 |
|-------------|--|
| △ 警告 | "取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷（※1）を負うことが想定されること"を示します。 |
| △ 注意 | "取り扱いを誤った場合、使用者が軽傷（※2）を負うことが想定されるか、または物的損害（※3）の発生が想定されること"を示します。 |

- 本文中に使用される図記号の意味は次の通りです。



■付属品

工事前にリモコン形式と付属品を確認してください。

| 台所リモコン | 浴室リモコン | 増設リモコン（別売品） |
|---|---|--|
| リモコン本体 1個 ※機種によりリモコンのスイッチ数が異なります。 Y型端子 2個 | リモコン取付板 (本体に付属) 1個 通気防止用フィルム付き 人感センサー (該当機種のみ) リモコン本体 1個 木ネジ (M4×L35) 2本 木ネジ (φ4×L30) 2本 オールプラグ 2個 | リモコン取付板 (本体に付属) 1個 リモコン本体 1個 木ネジ (M4×L35) 2本 木ネジ (φ4×L30) 2本 Y型端子 2個 接続端子 2個 中継リード線 2個 |

施工上のお願い

■準備

- リモコン本体を分解しないでください。
- 人感センサーの表面を強く押さないでください。人感センサー部には傷、汚れを付けないでください。故障の原因になります。（該当機種のみ）
- 台所用と浴室用で取付ねじが異なりますので必ず確認してから施工してください。リモコン作動不良の原因になることがあります。
- リモコンコードの長さは、30m以内にしてください。30mを超えると機器の作動不良の原因になります。
- リモコンコードは0.3mm²（2芯）を使用してください。

■施工

- リモコンは、平らな面に隙間なく取り付けてください。凹凸があると取付時に変形して作動不良の原因になることがあります。
- リモコンのねじ止めには、電気ドライバー、インパクトドライバー等は使用しないでください。破損や変形のおそれがあります。
- 施工時、リモコン内部に鉄粉や砂などの異物が入らないようにしてください。スピーカー部に鉄粉が付着して、音が出なくなるおそれがあります。
- リモコンコードは、電源配線といっしょに引き回さないでください。ノイズによる誤作動のおそれがあります。
- リモコンコードをコンクリートなどに埋め込むときは電源管などを使用してコードを傷つけないようにしてください。
- リモコンコードが短絡しないように施工してください。

《台所リモコン》

- 台所リモコン施工時にY型端子が変形しないように取り付けてください。
- 台所リモコン取付板が壁面より深く沈みこむほど、ねじを強く締め付けないでください。正常に取り付けできなくなることがあります。
- リモコンコードを露出配線する場合、接続端子部に外力が加わらないようにリモコンコードを壁面に固定してください。
- リモコンコードを台所リモコン本体とリモコン取付板にはさみ込みないようにしてください。また、埋込用スイッチボックスを使用せず壁から直接リモコンコードを引き出す場合は、はさみ込みやすくなりますので、リモコンコードを確実に収めてください。

《浴室リモコン》

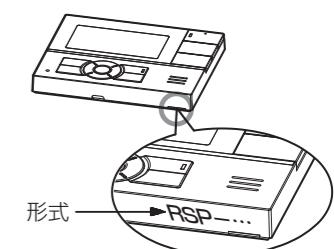
- 浴室リモコンと壁の間は、水や蒸気が浸入しないよう全周にシリコンシール剤を塗布してコーティングしてください。シール剤での防水処理が不十分の場合、リモコンの内部に水や蒸気が入り、故障の原因になります。メンテナンスのため、化粧カバーにシール剤がかからないようにコーティングしてください。

台所（増設）リモコン工事

取付場所の選定

- 取付位置はスイッチ操作がしやすく、表示が良く見える場所に取り付けてください。
- 台所（増設）リモコンは平らな面で、金属類のない場所に取り付けてください。
※端子台に金属が触れるショートし、故障の原因になります。
- 次の場所は避けて取り付けてください。
 - ・台所（増設）リモコンは、浴室など湿気が多いところには絶対に取り付けない。
防水構造ではありません。
 - ・ガステーブル、こんろなどの燃焼機器やIH調理器の上など高温（50°C以上）になるところ。
 - ・直射日光、水しぶき、蒸気、油、水滴のかかるところ。
 - ・無線機を有するドアホン機器や電子レンジなどの電波を発する機器、テレビなどの電化製品の近くは避けて取り付ける。
- 上下左右20cm以上離して取り付ける。
(取付壁内部に金属がある場合は、十分離してください。)
- ・浴室リモコンと同一の壁。
- ・浴室リモコンと近接するところ。（ハウリングを起こす場合があります。）

増設リモコンを取り付ける際は、取付前に形式を確認してください。



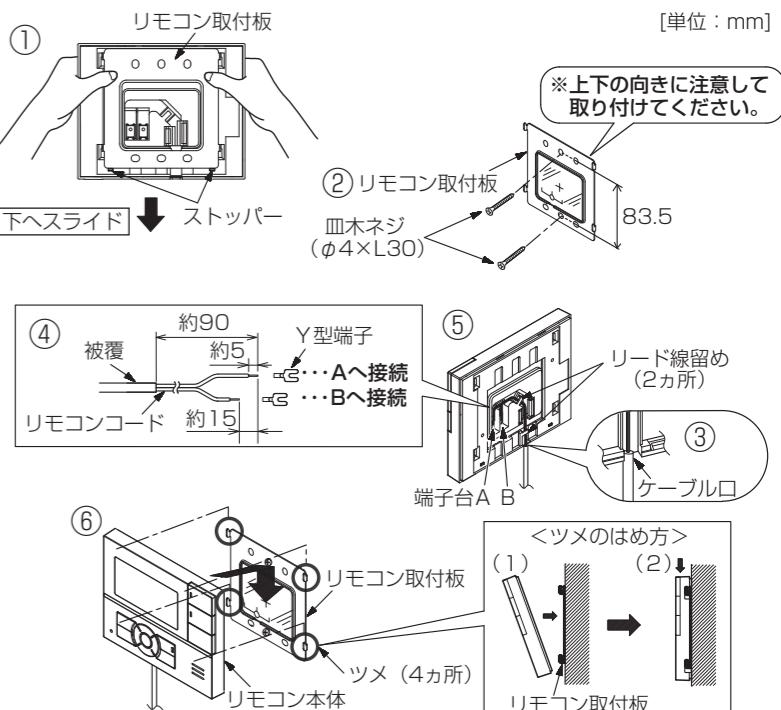
増設リモコンを取り付ける際は台所リモコンと増設リモコンを間違えないよう注意してください。（増設リモコンは「RSP-」ではじまる形式です。）

壁面に取り付ける場合（露出配線）

- ①リモコン裏面のリモコン取付板上部をリモコン本体に押し付けながら「ストッパー」（2ヵ所）に乗り上げるようにして下側にスライドさせて、リモコン取付板を取りはずす。
- ②リモコン取付板を付属の皿木ネジ（Φ4×L30）で壁面に固定する。
- ③リモコン背面のケーブル口をニッパーなどで広めに切り欠く。切り口をカッターなどで仕上げる。
- ④リモコンコードの被覆を右図のようにむき、付属のY型端子を圧着する。
- ⑤Y型端子をリモコン背面の端子台に接続する。
(長い方をA、短い方をBへ)
リード線留め（2ヵ所）を通して固定し、溝に沿わせてケーブル口まで導く。
※リモコンコードに極性はありません。

締付トルク：0.6N·m (6kgf·cm)

- ⑥リモコン本体をリモコン取付板に元どおりに取り付ける。
 - (1) 先に下側2ヵ所のツメをはめ、リモコンコードが正しく取り付けられていることを確認してから、上側2ヵ所をはめる。
 - (2) 下方へスライドさせる。
※台所リモコン本体のガタつきがないことを確認してください。
- ⑦リモコンコードを壁に固定し、機器本体まで配線する。

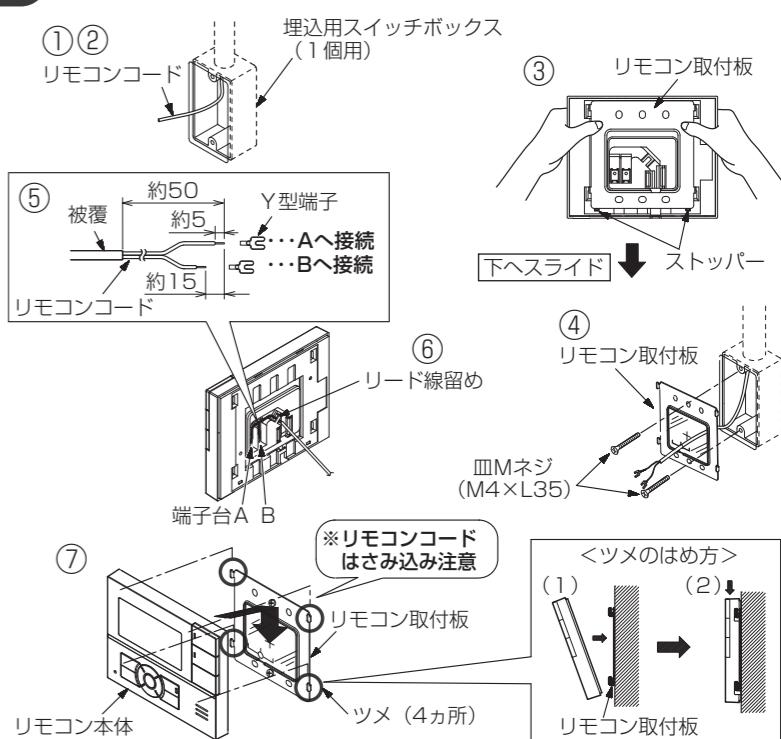


リモコンコードを壁中に通す場合（埋込配線）

- ①リモコン取付位置に埋込用スイッチボックス（1個用）を取り付けておく。
- ②リモコンコードを電線管に通し、機器本体まで配線しておく。
- ③リモコン裏面のリモコン取付板上部をリモコン本体に押し付けながら「ストッパー」（2ヵ所）に乗り上げるようにして下側にスライドさせて、リモコン取付板を取りはずす。
- ④リモコンコードをリモコン取付板の通気防止用フィルム左下の穴より引き出し、リモコン取付板を付属の皿Mネジ（M4×L35）で埋込用スイッチボックスに固定する。
(左下の穴から引き出すことが難しい場合は、中央のスリット部からリモコン線を引き出してください。)
- ⑤埋込用スイッチボックスから出ているリモコンコードの被覆を右図のようにむき、付属のY型端子を圧着する。
- ⑥Y型端子をリモコン背面の端子台に接続し（長い方をA、短い方をBへ）、リード線留めを通して固定する。
- ※リモコンコードに極性はありません。

締付トルク：0.6N·m (6kgf·cm)

- ⑦リモコン本体をリモコン取付板に元どおりに取り付ける。
 - (1) 先に下側2ヵ所のツメをはめ、リモコンコードが正しく取り付けられていることを確認してから、上側2ヵ所をはめる。
 - (2) 下方へスライドさせる。
※台所リモコン本体のガタつきがないことを確認してください。



浴室リモコン工事

取付場所の選定

●取付位置は浴室内のスイッチ操作がしやすく、表示が良く見える場所に取り付けてください。

●浴室リモコンは防水タイプですが、できるだけ温水や水がかかりにくい場所に取り付けてください。

●次の場所は避けて取り付けてください。

・鉄筋や柱が壁の中を通っているところ

・台所リモコンと同一の壁

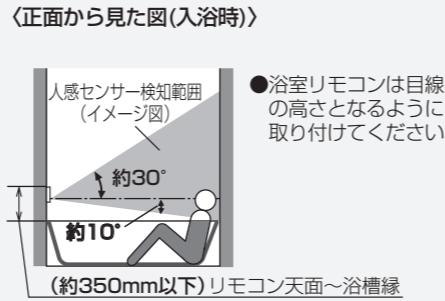
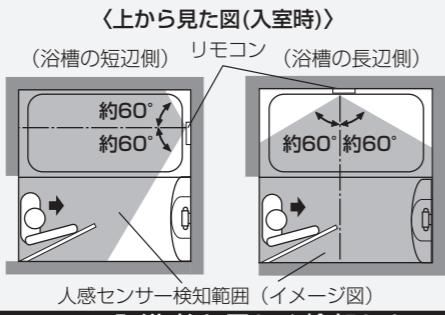
(ハウリングを起こす場合があります。)

●浴室リモコンには、浴室に入浴者が入ったことを検知する人感センサーが搭載されています。※機種により人感センサー機能がないものがあります。

・人感センサーが正しく検知するように、下図の推奨例および本書記載の人感センサー検知範囲を参考にして取り付けてください。

・浴室リモコンの取付工事が正しく行われていないと、浴室に入ったときや入浴中に、人感センサーが入浴者を正しく検知しない場合があります。

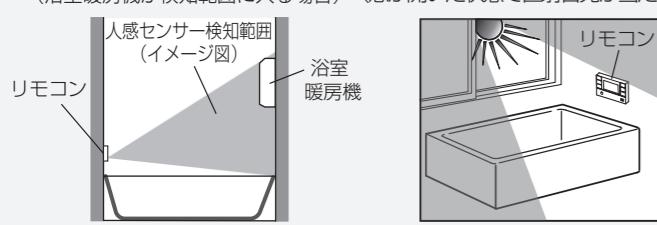
推奨例



入浴者を正しく検知しない例

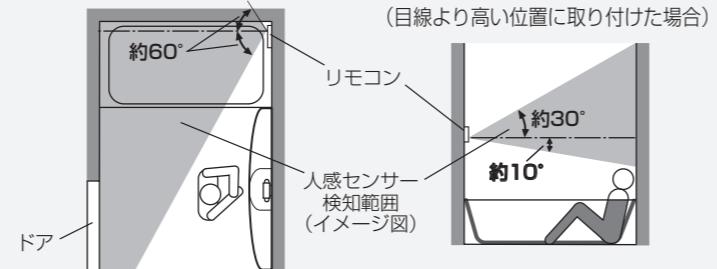
●人感センサー検知範囲に浴室暖房機などの発熱体がある場合や、窓が開いた状態でリモコンに直射日光が当たると、入浴者がいないのにいると誤検知する場合があります。

(浴室暖房機が検知範囲に入る場合) (窓が開いた状態で直射日光が当たる場合)



●浴室リモコンを広い浴室のすみや目線より高い位置に取り付けると、入浴者を検知しない場合があります。

(広い浴室のすみに取り付けた場合)



壁面に直取付けの場合（壁内配線）

①壁面にリモコンコード用穴（φ22）とリモコン固定用穴（φ7）をあける。

②タイル仕上げの浴室に取り付ける場合は、①であけたφ7穴にオールプラグを差し込んで取り付ける。

ユニットバスに取り付ける場合は、壁面裏側に右図のような当て板を取り付ける。

③リモコンの下部にある切り欠き（3カ所）にマイナスドライバーなどを差し込んで軽く回して隙間をあけ、化粧カバーを軽く引き上げて化粧カバーをはずす。

④リモコンコードの被覆をむき、浴室リモコン本体付属の接続端子に挿入し、圧着する。

⑤リモコン背面の接着テープのシールをはがし、リモコンが水平になるように壁に貼り付ける。

⑥付属の木ネジ（φ4×L30）で浴室リモコン本体を壁面に固定する。

⑦浴室リモコン本体に化粧カバーを上下のツメがパチンと音がするまで押しこみ、元どおりに取り付ける。

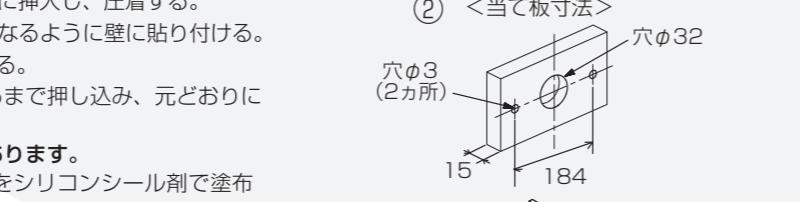
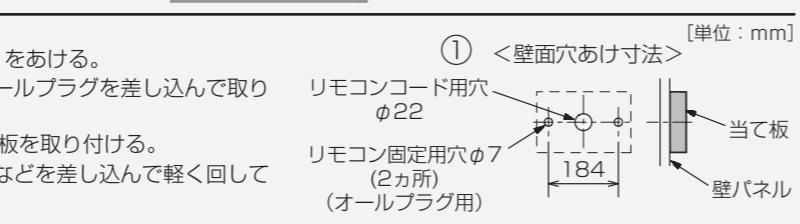
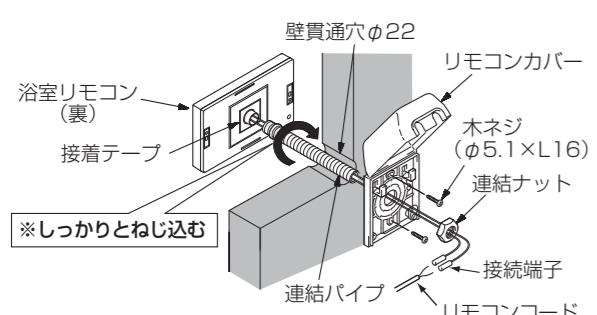
※化粧カバーが開いているとスイッチが押しづらくなることがあります。

⑧浴室リモコンと壁の間には、水や蒸気が浸入しないように全周をシリコンシール剤で塗布してコーキングし、確実に防水処理をする。

壁貫通取り付けの場合

※別売品(UKW-1)が必要になります。

※詳しくは、別売品（UKW-1）に付属の取付説明書をよくお読みのうえ、正しく施工してください。



●リモコンから機器本体までの接続工事は、機器本体に付属の工事説明書に従ってください。

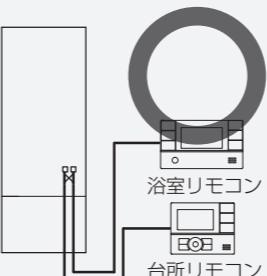
●1個のリモコンに対し、1本のリモコンコードを使用してください。

●リモコンコードをリモコン接続端子以降の途中で中継して、リモコンからリモコンへ数珠つなぎ配線したり、途中で枝分かれ配線しないでください。誤作動の原因になります。

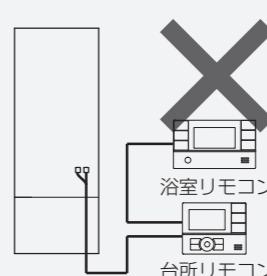
●増設リモコンの接続個数は1個までです。それ以上の個数は接続しないでください。

※機種により増設リモコンの設定がないものがあります。

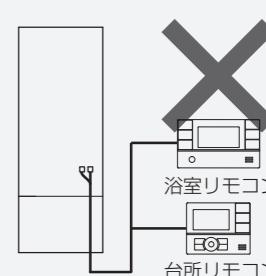
正しい配線



数珠つなぎ配線



枝分かれ配線



●増設リモコンの接続方法は下記に従ってください。

I. 機器本体と接続する場合

①増設リモコンのリモコンコードと付属の中継リード線をいっしょにリモコン接続端子に挿入し、圧着する。

②台所リモコンと浴室リモコンのリモコンコードと一緒に中継リード線の接続端子に挿入し、圧着する。

③機器本体のクランプで各リモコンのリモコンコードを固定する。

II. 増設リモコンを後から接続する場合

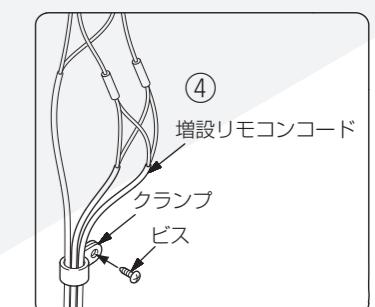
①浴室リモコンのリモコンコードを切断する。（台所リモコンのリモコンコードでも可）

②付属の接続端子を、切断した上流側の浴室リモコンコードに挿入し、圧着する。

③取り付けた接続端子に、切断した下流側の浴室リモコンコードと増設リモコンのリモコンコードをいっしょに挿入し、圧着する。

④機器本体のクランプで各リモコンのリモコンコードを固定する。

接続端子で接続している場合



台所リモコンと周辺機器の接続

HEMS対応アダプターとの接続

※台所リモコンのみ接続できます。（機種により接続できないものがあります。）

●台所リモコン背面の端子カバーをニッパー等で切り取り、HEMS対応アダプターと台所リモコンを専用の通信線で接続する。

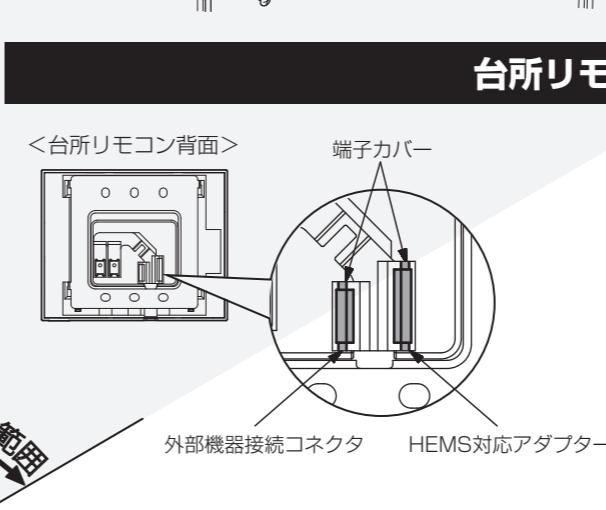
※詳しくは、HEMS対応アダプターの説明書をよくお読みのうえ、正しく接続してください。

外部機器との接続

※台所リモコンのみ接続できます。（機種により接続できないものがあります。）

●台所リモコン背面の端子カバーをニッパー等で切り取り、外部機器と台所リモコンを外部機器連動リード線で接続する。

※詳しくは、外部機器連動リード線の説明書をよくお読みのうえ、正しく接続してください。



【参考】(該当機種のみ)

本書を使用することで人感センサー検知範囲を確認することができます。